



繪入 教訓

ひめがく

紀行三

9
1028
15



9
1028
15



比賣監紀行卷之三

目錄

緹蒙 列女傳
 曹娥 後漢書
 楊香 五倫書
 詹氏女 古今列女傳
 趙娥 後漢書
 王舜 音義列女傳
 珠崖二義 列女傳
 朱娥 古今列女傳

附 王氏女
 附 徐彩鸞
 附 王廣女
 附 衛恭女

臣監卷三

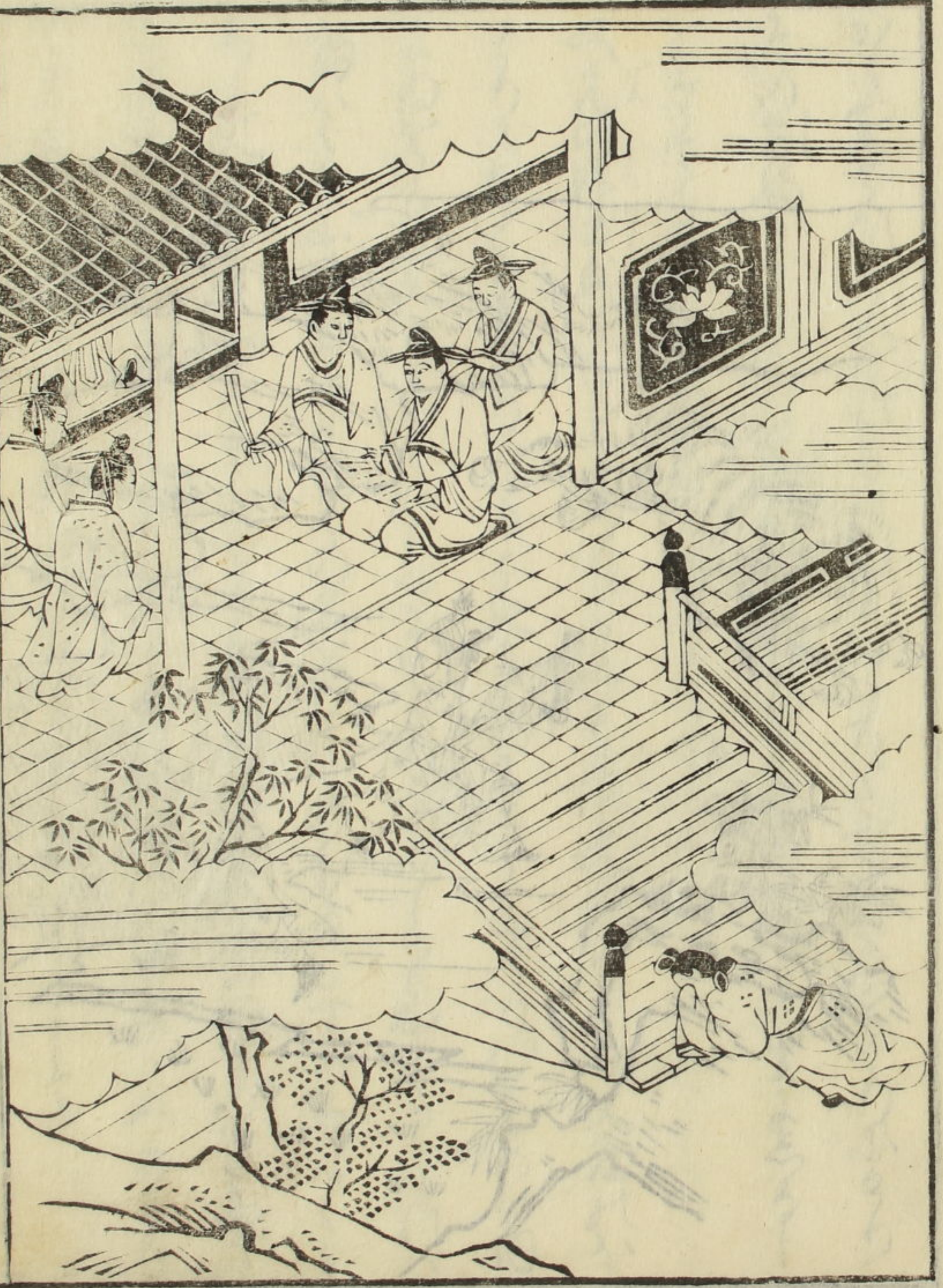
七〇

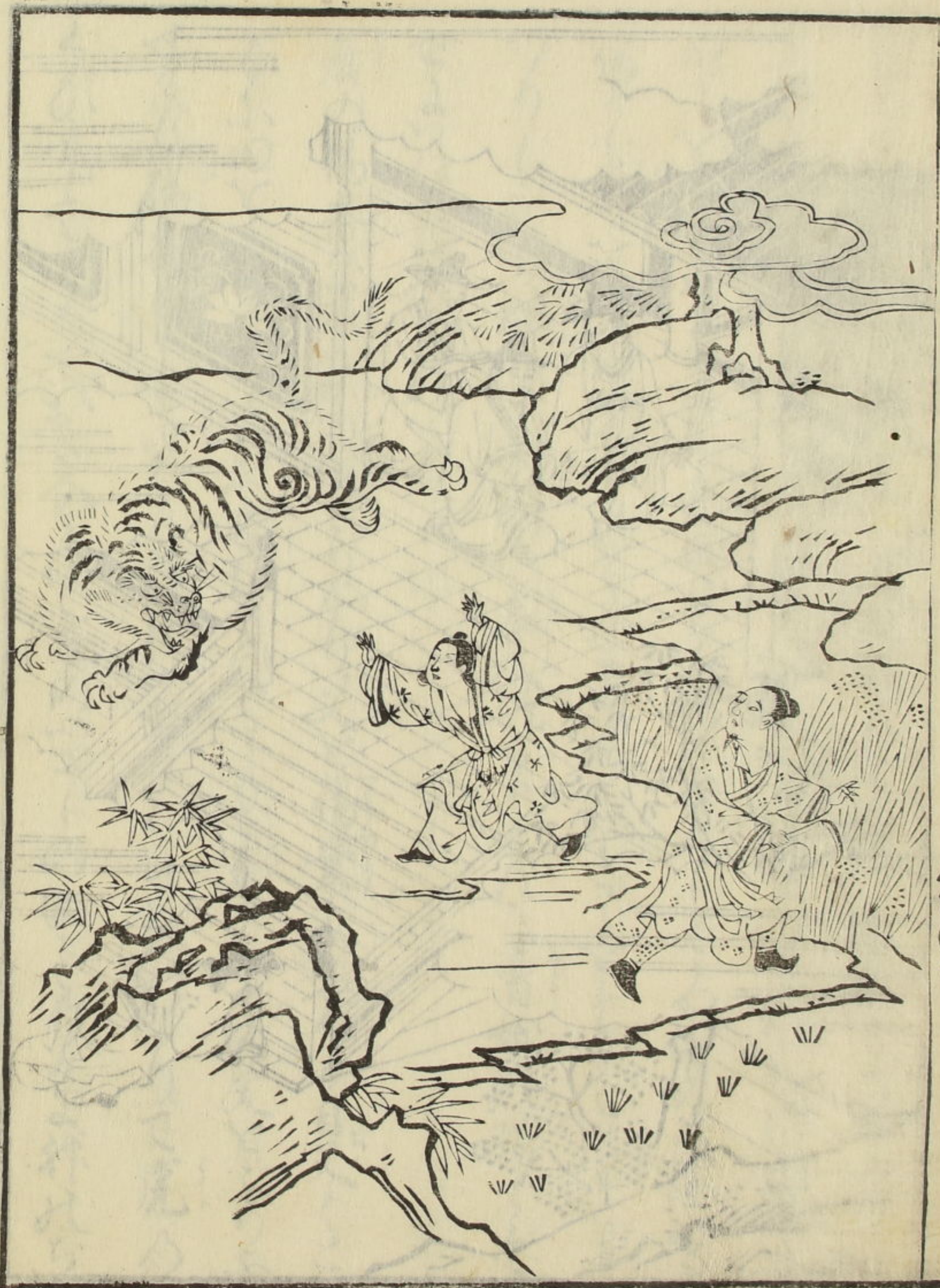
かりりせらるるしとすてらめと處かこがまもいひあへく父
 とあひいへ長安の都よゆと父十とよめくわくわくは統宗と
 つらみとらげくなげとていける處のこが父齊の國よ侍
 けし何もふよとていへはまればひらるがぢりかたのよめ
 かはしむつらとていへなかりかそれ死ぬかめのにていひらる
 といへこのにていびつとてはよあやとらひとらひとら
 ためんとすれとそそのらようらげしひ孫がうくち處のこが
 とめとていへらとていへとていへとていへとていへとていへ
 てめとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 とていへらとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら

まもてえが下よみておれりして死に肉刑のはとがしとくゆ
 されよとら統宗がとていへらとていへらとていへらとていへら
 すくふのよめとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 ぬのよめとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 渾の曹娥とていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 母よ若ぬとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 ざりかつらとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 ひのよめとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 ざりてとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら
 とていへらとていへらとていへらとていへらとていへらとていへら

せりてよふにまらむ日ありてくさむかむのひりき
 らふらぬおりのまらむかむのひりきよのひりき
 かうとりのちまけの曹娥はう十にたりとてそのねまむ
 何が碑とていれとてそのころまらむかむとてなま
 つりくまり碑乃又と時の名人はくまれむ曹娥は碑とて
 せよひつてふれ

唐の楊香は農家のひとあり父と楊豊とつみあり父とこ
 のふいとりのわらむ虎むらむとてあむその父とりのあ
 せりの楊香と十にたりけれがすかむらとびがりて虎乃
 らむらむとりのあむらむらそのころのゆとありはそれら





けしやそいじん虎おそれて逃げたりさて女いたをうりふり
 るのちぬくめでし来たしおどおくりあふその里よまら
 どとそそきぬとあつりあつりわ
 又えの活玉氏がいとありしも農夫のみなり又なれが
 とりよおぐおどりけりしは弱よあつりしに
 よめさちが父がよがれあつりしにわらわくつんえれが
 弱いわふゆとけりてその父とむそのけりしすあ返ゆくと
 らよ父がすくめらあつりてあいつと弱のなつさわ
 らしてそわとくうらうらめれが父のつきてくわき
 くももる感ふりて鬼神のたをけさけあふと

宗の唐氏何ごとくわぶりのいじりあり年十七れん
 そのいじりは一揆れつゝものぢりたりと俄に里を
 ぢりし人々あはれまじひのいじりあはげさて
 いふふりうまんとすれどもおやこもよりのふりうま
 一うづりてすていふいふのいじりもなぐものふ
 ぢりいふと見えぬいふいふいふいふいふいふいふ
 ぢりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 らせん父兄がいのちよあはれをいふよらていふいふ
 ぢり人も益なりは事なるべしといふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

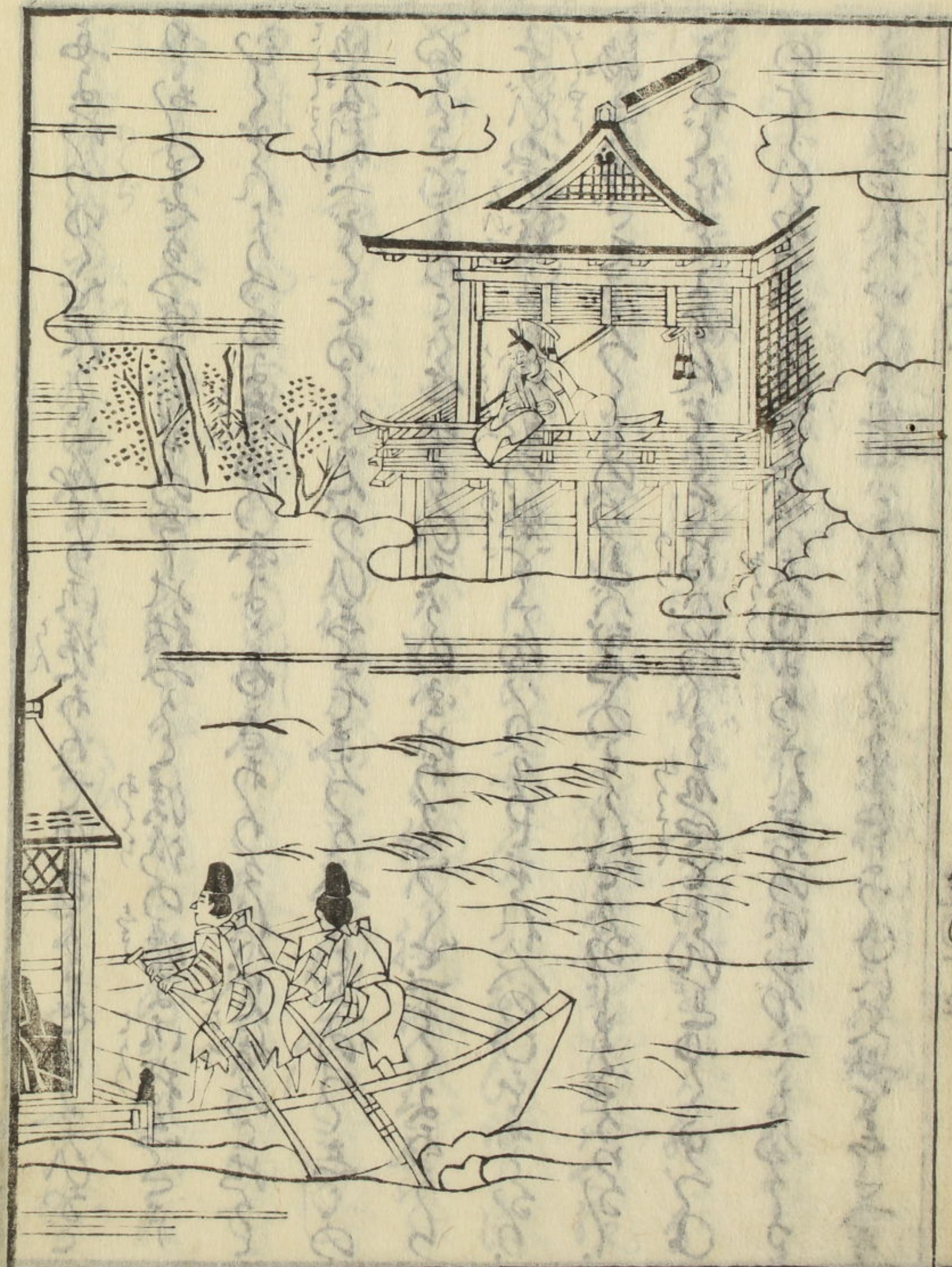
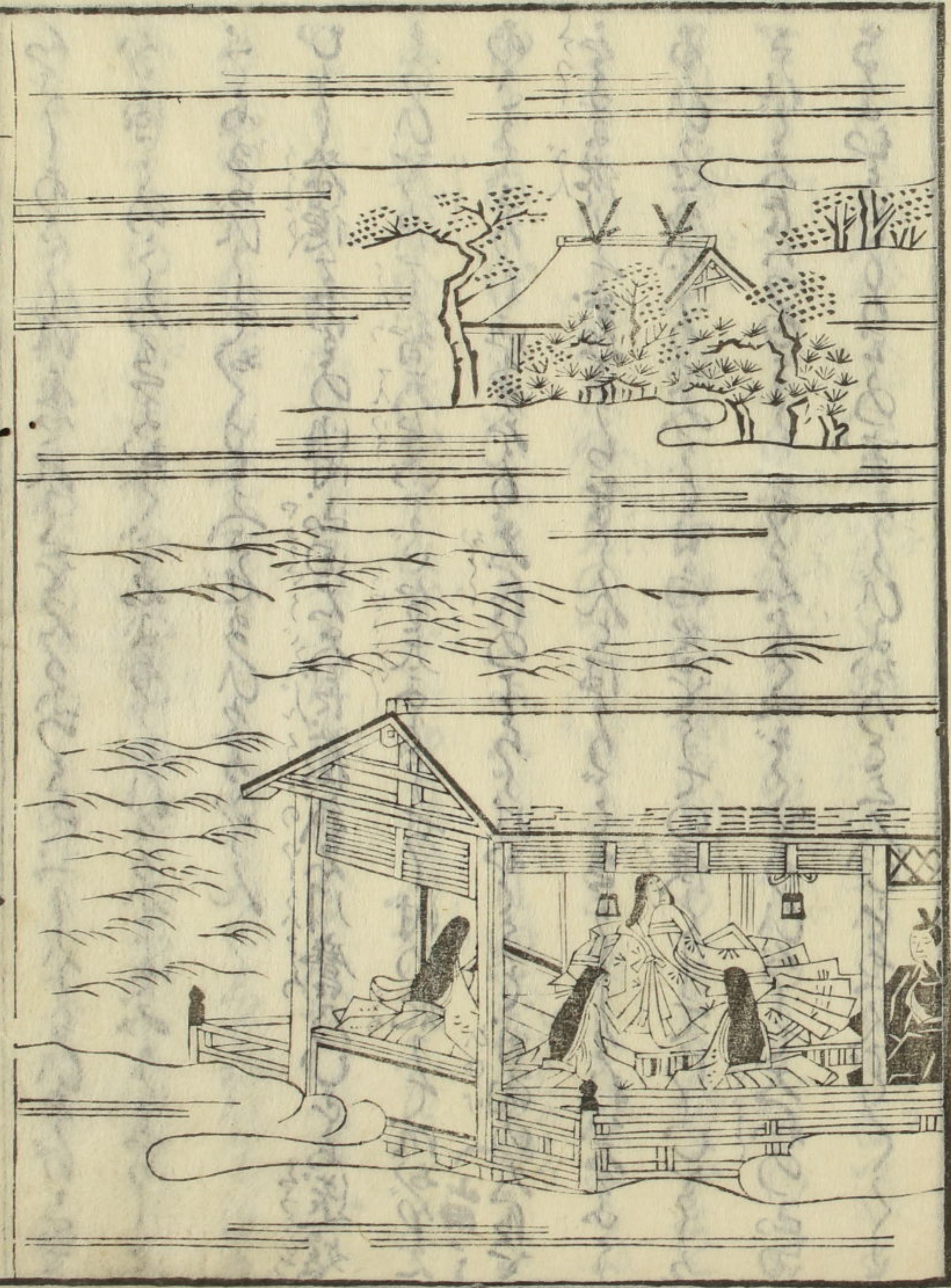
父兄よひひていふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 となくさあてりうづりいふいふいふいふいふいふ
 東のいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 とすげいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 徐氏名ハ親愛よりいふいふいふいふいふいふいふ
 天祥があはれいふいふいふいふいふいふいふいふ
 一いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

親書をげるといふは父なり。まがもふくく父とたをひぬ
 むとらひくれで父とゆらして親書をとりゆく親書をそ
 うふ父よつちていづく親死ぬもむらうめとくもどとほのま
 りのぬまもていづく植林橋らふはくもまら付よゆとけ
 くらあすすもむらひひてあかりあうなれうまもいりあ
 だ植林の橋れしのみうもそがもていづんがういづれ
 いづれもむらうありすれもあまうのぬまもくちりあま
 ちらうもむらうくしていづれあひれがむらうもいづれ
 ぶがびくもくくうけ二人のいづれあま命まうりていづれあま
 むらうもむらういづれもまよそのぬまもくちり

漢の趙嫁といふ女ありその父と二人のあまうこれぬがうと
 二人ありけりうま病てあまもれがむらうの人もうてむく
 むらうのまよあまあまのむらうとむらうのまよはく趙嫁いり
 りがまのいづれあひれはむらうのむらうもていづれも
 ひくもいづれかどかていづれ車の内まぬむらうれれ門
 りまもいづれにゆひもれはなまよあまのいづれぬなりと
 えらりりらがあまのぬまもまよあまのいづれぬまらうま
 かりかていづれ縣のぬまもまらうりていづれあまもいづれ
 ていづれもむらうかうもまらうもあまもあまのぬまもいづれ
 じいづれもむらういづれあまのぬまもいづれあまもいづれ

しがあはるゆのえはあひけりる海津にやれ妃なり帝
 あちやれぬ難波のえよもさありてたゞる屋よのや
 せなりいと海にふかあふえはあはひきりうがあふ
 がたてうらかげりしみややゆゆいさかあふいなりと
 せまれどあつとせげりあつらゆの父母ひくおひゆに
 いかさひりやうてあつらふかきくゆり移りてあつら
 かにあまうりてら母よんえはあふとせれいあふい
 めたれくなら二あやあして年えくならあつらありて
 あよふとあつらあふいあつらありまよふこのまひて
 くら漢流のい東れ海人あつらありて昔後よあつらあふえはあ

あまのりゆくだるしゆり流ありてあふいあふい
 のあまあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 しくそれらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 はあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 せびぬえはあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 海にあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 されたてあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 のあひあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 ーあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら



なりまひるれだまよといふるあまをひくまひとて
 おりなりいふ一孔門いんもんの山路さんじうの玉たまとてふれはあひ傷入あざる
 縁ゆかりとていざかきけりをれふとてあひくおあつちいざかき
 入るよふとていざかきてれりや一すてなまのひとあり妃きの
 ちかのみとていざかきよふたかりてなれゆゑいざかき入りや
 ちかくあふれなり妃きのあまじくまきあり縁ゆかり入るあせらなり
 ぶしちちもとて大おほの珠たまとていひまひ妃きのあまをげさあまゆれ
 ぶとくいざかきつりよ月つき向むかを珠たまあまくだちあまをさあふ
 どりりなりけりいざかきあまをりせんいざかき
たかりのゆじくといひ
 ち福連ふくれん彼か自みづか家け女にとていざかき射やる縁ゆかりとて縁ゆかりのあまなりとて死しに

てはちうひとていざかきとあつたあまのあまひつとて男おとこは
 くりよとれいざかきと暮くのほりよいざかきあまつづひよあ念ねん
 ちかり孝かうをいざかきいざかきたゆくとていざかきとて感かんせとていざかき
 していざかきとていざかきあまをいざかきとていざかきとていざかきとて
 同どうよとていざかきとていざかき縁ゆかり連れんえとていざかきとていざかきとていざかきとて
 うとよとていざかきとていざかき孝かう子し順じゆん孫そん養やう夫ふう節せつ婦ふとていざかきとていざかきとて
 ちかひとていざかきとていざかき孝かう子し順じゆん孫そん養やう夫ふう節せつ婦ふとていざかきとていざかきとて
 て。祖そとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとて
 ちかひとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとて
 ちかひとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとていざかきとて

入難波於妻良賣ハ洗前せんぜんのまれ人なりびと死がさうりくも
 らく母ははくしきうからく母ととりふくくせぬ安ら賣あこゆ
 ぬうふまうしててまへひらめりあめいぬう年十六ありて
 宗像那の大領外正おほな佐秋良が妻とかりぬふらに秋良も
 せし世とくちうしてわのめとかりぬいひつらんめまのめがら
 のらうとてふりぬてつわよそのせいでんがめしりの天長れ
 上よすめりして後二返ごふりとありりうとゆつとせあひくると
 ひらあか人のまよ見えりうりゆとまのめわむせよまれば限
 なくうりてあひひらめりあめいひらぬひらぬひらぬひらぬ
 ちりびとていひひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ

いきなり時よひひらぬてんゆふりひつらんめまのめがら
 どお見のおりうてまのめまのめまのめまのめまのめまのめ
 物と人のあひとてまのめまのめまのめまのめまのめまのめ
 られどあのていひひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ
 ひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ
 まのめまのめまのめまのめまのめまのめまのめまのめまのめ
 せぬ物とていひひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ
 いひひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ
 せぬ物とていひひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ
 とあひひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬひらぬ

